

瑞 議 発 第 2 6 6 号

平成 2 9 年 3 月 2 3 日

瑞穂町長 石塚幸右衛門 様

瑞穂町議会議長 高水 永雄

総務産業建設委員会委員長

森 亘

瑞穂町議会総務産業建設委員会からの提言

日頃、議会の活動及び運営に対し、ご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、総務産業建設委員会では、今年1月に「まちなか会議」を開催しました。本年度のテーマは、昨年度に引き続き「地域コミュニティ」について、住民の方々とグループ討議を行いました。その後、まちなか会議で頂いた意見等を踏まえ、委員会にて協議を重ねて参りました。

つきましては、総務産業建設委員会として、別紙のとおり提言します。
なお、まちなか会議の概要報告を添付します。

提 言 書

本年度、総務産業建設委員会は、コミュニティ振興を主要課題と位置づけ調査研究を行ってきた。特に、平成29年1月25日、26日に開催した「まちなか会議」では、多くの町内会・自治会・子ども会関係者等が参加し意見交換を行うことが出来た。この会議において、現状の町内会・自治会等の課題が抽出され、その対策を論じ合ったが、大半が、「瑞穂町コミュニティ振興計画」の記載に関連する事項であることが判明した。この結果を受け、委員会で検討した結果、役員不足、加入率低下といった多くの町内会・自治会等の課題を解決するためには、振興計画に基づく施策を着実に実行していくことが求められる。

当委員会では、これらの意見と現況の確認、調査結果を踏まえて協議を重ね、「瑞穂町コミュニティ振興計画」の目的達成に向け、以下の3点について対応するよう提言する。

一、地域コミュニティの位置付けの明確化

一、地域コミュニティのあり方の検討

一、連絡調整の場の充実

「みずほまちなか会議」の概要

日時：平成29年1月25日 午後7時から

場所：町民会館会議室

参加者：26名

日時：平成29年1月26日 午後7時から

場所：長岡コミュニティセンター会議室

参加者：28名

《 討議内容について 》

地域コミュニティを考える

～町内会・子ども会などの地域活性化について～

《 参加者意見（要旨） 》

《 現状 》

- ・町内会・子ども会とも役員のみ手不足。PTAも同様。
- ・役員決めが大変。（安協・防災委員など他の役も含めて）
- ・高齢化による脱会など会員数が減少。
- ・習い事等も含め、子どもが少なく組織できない。
- ・会長・役員が忙しすぎる。本業との調整が難しい。
- ・イベント参加メンバーが固定化している。
- ・働いている方が多く、連絡が取れない。
- ・共働きで活動に参加するのは難しい。
- ・若い世帯・女性の参加者が少ない。
- ・住んでいる子どもは全員メンバー。
- ・マンション暮らしで入るきっかけがない。
- ・子ども会の学区が違う。
- ・町内会費子ども会費の合算額が負担で脱会した方がいる。
- ・町民運動会の選手集めがたいへん。
- ・町内会と育成会の関係が良好とは言えない。 等

《課題》

- ・祭り等での夫人の負担を減らしていくこと、もしくは無くすこと。
- ・子供会の場合、親の理解を深めてもらうこと。
- ・公職の多くを町内会長が担わなくても良くすること。
- ・地域芸能の発表の場を増やすこと。
- ・入会のメリットを増やすこと。
- ・運営費用不足の解消すること。
- ・町内のお祭りでの若い人の参加を増やすこと。 等

《メリット》

- ・頼れる人、知り合いができた。
- ・行事等で仲間と会える。
- ・地域とのつながりができる。
- ・高齢者が元気になる。
- ・町に興味を持つ。
- ・役員を経験することで信頼される。
- ・町内会が無かったらと考えるとメリットがいろいろ見えてくる。 等

《解決策》

- ・高齢者サロンなど、コミュニティ団体が必要。
- ・行政が町内会の在り方についてガイドラインを策定しては。
- ・子ども会の育成に向けて必要施設を作る。
- ・町内会の掲示板の大きさがまちまちで数が少ない。もっと増やすべき。
- ・役員の負担を減らすため、行事数を減らす。役員の数を増やす。
- ・当面準会員として加入し、役員・会費は免除する。声掛け、挨拶など地域を知ってもらう。心がけでできることである。
- ・高齢者の役員を免除する。
- ・役員の任期を短くする。
- ・町内会のサポートとしてシルバー人材センターを活用する。
- ・加入してのメリットを明確に示す。
- ・助成金をあげる。
- ・助成金で飲食ができるようにする。
- ・災害時の提供物資を町内会の加入者優先を示す。
- ・若者との情報の共有化。
- ・子ども会については親の負担が大きいので行政の係わりを増やす。 等